

友の会員400人突破で おめでとう号

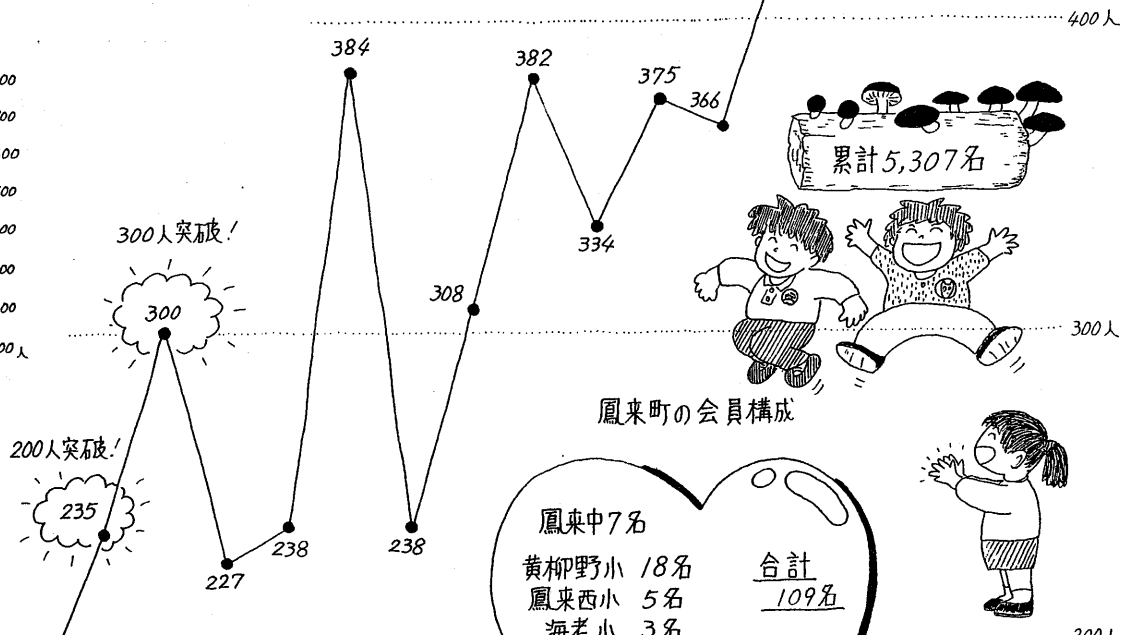
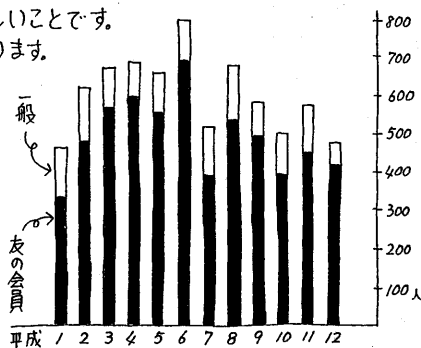
はぴっかたのり No. 71 2001.10

博物館友の会の仲間が、ついに400人を超えました。
地元、鳳来町に会員が増えたことが、何よりうれしいことです。
友の会では、最近つきのような活動を展開しています。

- 博物館行事への積極的参加
 - 学習会への参加
 - さのこ展用標本の採集と展示協力
 - コハズクの生息調査、巣箱調査協力
- 独自行事の開催
 - 梅雨期のさのこ観察
 - 横山館長と歩く鳳来の自然
 - 博物館感謝祭イベント
- 会報「るり山」の発行(年/回)
- 総会の開催(年/回)

また、会員の中には特別な分野に集中して活動したり、興味を持っている人たちによって、自然発生的にクラブができてつあります。
さのこ好きの人たちのグループ「鳳来さのこ倶楽部」
コハズクの調査、保護に関心のある人たちのグループ「木の葉倶楽部」
岩石、鉱物、化石の好きな人たちのグループ「鳳来ストーン倶楽部」などです。
また、個人でバラバラの活動ですが、将来は立派な倶楽部になってほしいと思います。
さらに、さまざまな倶楽部が生れるかもしれません。

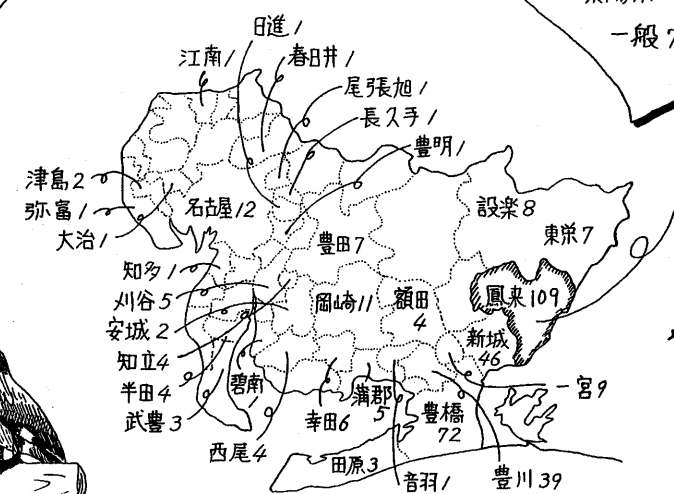
学習会参加状況



鳳来寺山自然科学博物館友の会の目的

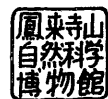
- 郷土の自然を楽しく学ぶ
- 自然科学の普及発展に寄与する
- 会員相互の親睦をはかる

愛知県下の会員の状況



鳳来町の会員構成

鳳来中	7名
黄柳野小	18名
鳳来西小	5名
海老小	3名
鳳来中部小	3名
東陽小	3名
一般	70名
合計	109名



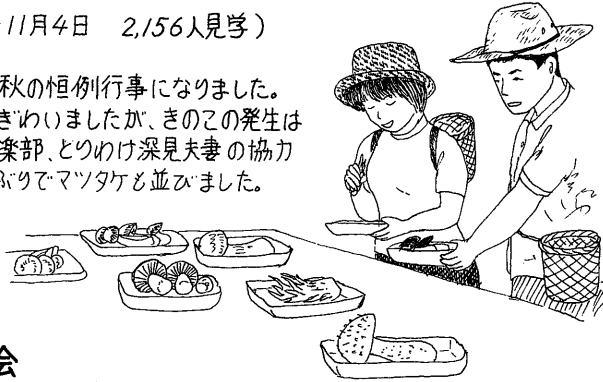
秋とまのこと博物館



まのこの展 (平成13年9月22日～11月4日 2,156人見学)

平成7年から始めた特別展で、秋の恒例行事になりました。今年もテレビなどで紹介され、にぎわいましたが、まのこの発生はいまひとつでした。それでまのこの倶楽部、とりわけ深見夫妻の協力でのりきることができました。何年かぶりでもツタケも並みました。

まのこの相談は夏ごろから増えはじめ、シーズンの終わりにまで124件でした。



「まのこを学ぶ」学習会

(平成13年10月14日 86名参加 晴)



おおせいの参加がありました。9月下旬頃から、まのこのめっきり出なくなりました。それでも観察場所の雑木林では63種が確認できました。

午後の勉強会では、採集されたまのこの説明とまのこの展会場に並んだまのこのでの解説が山田弘先生からありました。実物を教材に学ぶ勉強はいいですね。

何だ～? このキノコ

まのこは不明なものたくさんあります。今年もいろいろあらわれましたが、とても印象に残っているものを紹介します。

① 宇連の大きのこ (7月30日)

宇連タムの奥、宇連神社

近くで長坂光弘(名越)さん

が見出した巨大な

まのこです。人の顔

ほどもある大きさで、

ニンギョウタケの

なまのこですが、

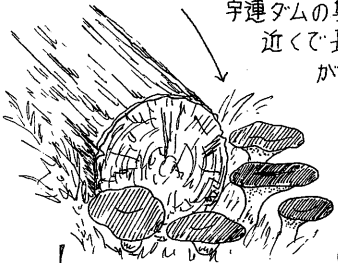
今だに正体不明です。

② 多木のケボまのこ (7月31日)

豊橋市多木の民家のアロック堀脇から突然

現われた嘔吐物のようなまのこでした。

住人が気味悪がって、調べに行きましたが、さっぱりわかりませんでした。しかし9月になって形がはっきりしてきてスルメタケと判明しました。



フクロウの館(やかた)

現在、博物館では6羽のフクロウの仲間がくわしています。いずれもケガや落鳥で保護されたものです。

フクロウのフクちゃん、交通事故で片目を失ってしまいました。今年の2月20日からいます(No.68参照)。

オオコハズクは、この秋にたてづけにやってきました。

I号は11月1日、豊川市国府の道路脇で飛べずに

うずくまっていた。II号は鳳来町山吉田の杉生さんの

工場に飛び込んで保護されたものです。オオコハズクは

留鳥ですので、元気になったら放鳥する予定です。

コハズクは3羽います。II号は名古屋市中川区

の民家に落鳥(9月24日)。V号は名古屋市中区のビル

4階の階段でうずくまっていた(10月7日)。IV号は

渥美町の道路沿いで保護されたものです(9月30日)。

翼と足にケガをし、全く動けないほど弱っていました。

発見した地元の鈴木一夫さんの手当てで、元気に回復できました。

コハズクには冬の自然はきびしいので、暖かくなる春に放鳥したいと考えています。

オオコハズク

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

II号

フクロウ



(2.20)

I号



(11.1)

II号



(11.19)

コハズク



赤かき色 (10.6) 黒かき色 (10.14) 茶かき色 (11.6)

博物館38周年記念感謝祭

(平成13年11月23日 晴)



博物館と友の会共催の感謝祭を、今年も盛大にひらくことができました。博物館グッズの特売コーナーと共に、テント2張りを使って、会員の作品を即売しました。

出品者は本多夫妻、高橋、竹之内、深見夫妻、野口、奥田、山崎一家です。

そして、学術委員の三津井先生は、新作オカリナと楽団をひきつけて、会場を盛りあげてくださいました。

みなさんの売り上げの一部～全部は、友の会の運営費に繰り入れさせていただきました。また、当日の販売員として深見夫妻、山崎・加藤ファミリー、竹之内さんが手伝ってくれました。ご支援、ご協力ありがとうございました。

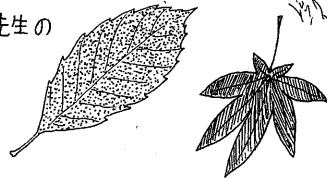
「秋の紅葉を楽しむ」学習会

(平成13年11月25日 64名参加 晴)

秋晴れの愛知県民の森で開催しました。東尾根までの健脚コース、谷沿いコース、じっくりゆっくりコースに分かれての観察会です。

尾根コースでは鳳来寺山、棚山、宇連山、明神山を一望しながら昼食。谷沿いコースでは、めずらしいオロシタケが見つけられました。

ゆっくりコースは、高木典雄先生の代では聞けないおもしろい植物のお話を、じっくりといっぱい聞くことができました。



冬の博物館日誌



鳥を見て巣箱を作ろう (平成13年12月8日、晴)

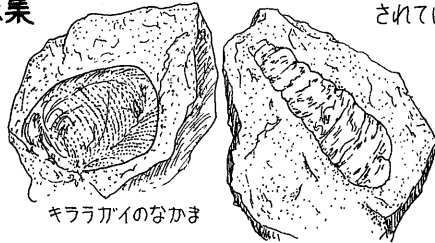
50名の参加でした。午前は鳳来寺高校のグラウンド方面へ野鳥観察に出かけました。14種を確認。はるか上空には、フタカと姿を現しました。

午後は巣箱づくりです。シジュウカラ用、スズメ用など、鳥にあわせて入口の穴の大きさを覚えてやるのが大切です。招待したい野鳥の大きさを考えて、思い思いに巣箱を完成させました。

鳳来西小学校6年生、化石採集 (平成13年12月14日)

6年生になると理科で、地層や岩石について学びます。鳳来寺山付近では、火成岩とたい積岩を見ることができると、野外学習にはうってつけです。

この日は6年生全員で、地層の観察と化石の採集を行ない、ほとんどの人が化石を採集できました。およそ1600万年前の深さ200mほどの海の底に住んでいた貝です。

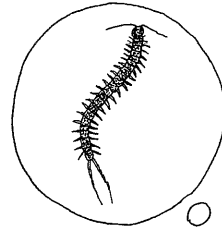
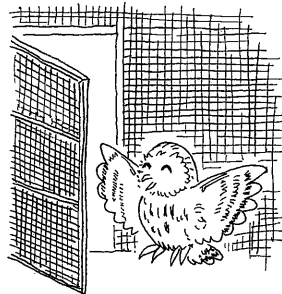


キラガイのなまこ

キリガイマシのなまこ

フクロウ無事放鳥 (平成13年12月14日)

師走の8日に持ち込まれた春日井のフクロウは、コハウスの内ではハビツ中でしたが、この日ドアのカギがあいているすきに脱走(脱出)。無事放鳥となりました。メデタシ、メデタシ。



ムカデラン自生地をたずねて (平成13年12月30日)

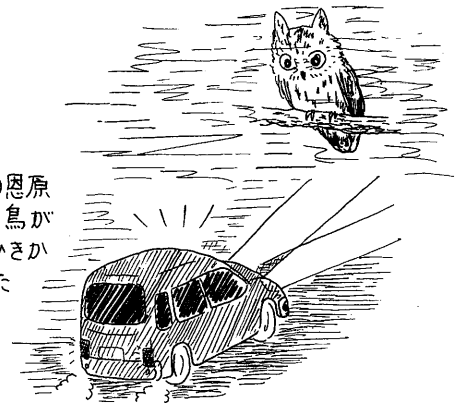
小雪の降る中、青山般大氏の案内で、山田由加藤等次先生(当館学術委員)と共に、川合の自生地をたずねました。絶壁の岩場に、その名のとおり、ムカデがほうように生えていました。分柿の北限ということで県指定の天然記念物に指定されています。大切に守っていかねばなりません。

冬のオオコリハズク (平成12年12月10日)

この日の夜9時すぎ、愛郷の恩原地内を走っていると、車の上空を鳥が横ざりしました。もしやと思いひきかえしてみると、道路上につき出た枝にオオコリハズクが止まり、こちらを見つめています。

目と目があって、やがて飛び去りました。

前日ケガをしたオオコリハズクが3ヶ月から持ち込まれたばかりです(当日死亡)。この時期は事故にあう野鳥が多くなります。



ウイルスメールに感染 (平成13年12月14日)

博物館のパソコンがウイルスに感染してしまいました。そして、さらに関係者の方たちに配信され、みなさんに迷惑をかけてしまいました。被害にあわれた方にお詫びします。

館もとても迷惑しました。誰がこんな人さわかせなどの☆を考えるのでしょうか。この日はいろいろなできごとが一度に起りました。この冬の初雪もこの日でした。



ハイタカ激突・侵入 (平成13年12月14日)

突然ガラスが激しく割れる音がしました。中庭の方角からです。現場に行くと、窓ガラスをつき破って部屋の中でタカがあはれていました。

調べるとハイタカです。地面には、羽をむしらぬ頭をくいちぎられた鳥(キシバトと思われる)が落ちていました。

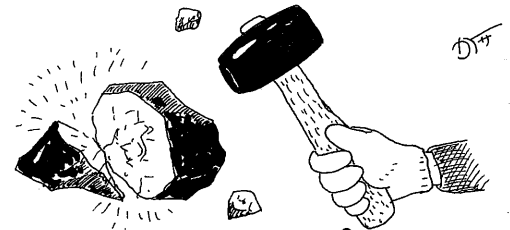
幸いハイタカにケガはなく、その日の内に放鳥できました。

ただし、ガラスの修理代がしめて23,100円也。でした。



「館長と歩く鳳来の自然」実施 (平成13年12月22日、38名参加)

友の会行事として、今年初めて企画した行事です。30人の定員に対して約70人の応募がありました。今回のコースは吉村のマンガン鉱、双瀬の松脂岩、入洞のオパールを求めて歩きました。寒い谷間の鉱山跡で、まっ黒な重い岩を割ると、ピンクに輝くオパールがあらわれます。夢中でハンマーをふるいました。



はぴっぴだより No. 73
2002.1



博物館の門松 (平成13年12月28日)

年末年始は博物館もお休みになります。

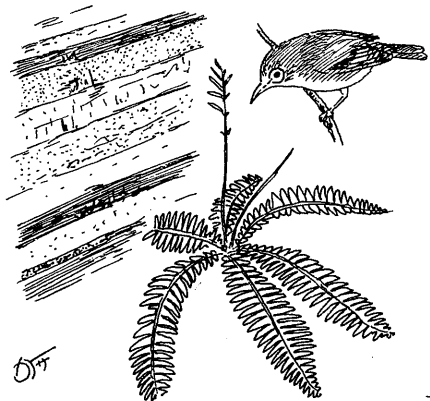
年末には、大そうじの後、恒例の門松を立てます。材料はほとんど自前です。裏山のモウソウ竹とナンテン、マツとウメの枝があればすぐできます。モウソウチクは3~4mの長さのまま使うので、セツのようなです。「お客様がおせいに来てください。」と、願いごとを書いておきたい気持ちです。



冬の博物館事件簿



「鳳来寺山を歩いて冬の自然を見よう」学習会
(平成14年2月7日、くものち雨、66名参加)



今年は地学、植物、動物の3部門が合同でおこないました。地学部門は、この付近が海だった頃の地層の観察と化石採集。さらに、その後の火山活動のようすを地質の変化を見ながら学びました。

植物部門は、冬でも青々としているシタ類を中心に観察しました。動物部門は、越冬中の虫や、野鳥の観察をしました。野鳥は17種を確認。ここで冬を越したのかイワツバメも飛んでいました。お昼の豚汁もおいしかったよ(森下、清尾作)。

オオコハズク消える (平成14年1月30日)



朝出勤し、コハウスをのぞくと、12日にハウス内に放鳥したはずのオオコハズク(I号)の姿がありません。さらによく見ると羽があちらこちらに散乱しています。

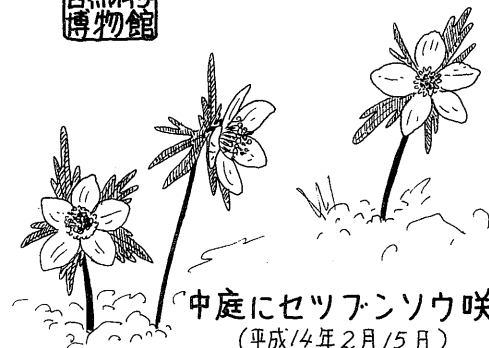
目を上の方に向けると、フクちゃん足の枝にも羽がついていました。犯人(犯鳥?)は明らかです。片目が失明しているから大丈夫と思っていたのに…。

やはり猛さん類。油断でした。I号には、かわいそうなことをしました。



危険なネット (平成14年2月10日)

四谷の畑でオオコハズクが糸網にからまっていた。気づいた時には、すでに死んでいました。(丸山博志先生発見)

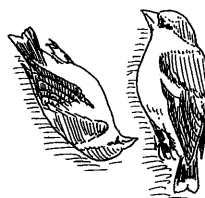


中庭にセツファンソウ咲く (平成14年2月15日)

セツファンソウは日本特産で、節分の頃、厳寒の季節に花を咲かすことで有名です。名号の石雲寺の自生地は、今年とおおせいの見学者が訪れたようです。博物館では、鉢植えのセツファンソウをロビーに展示して来館者に楽しんでもらっています。1ネコ侵入事件で中庭を調べていると、セツファンソウが3輪、斜面の草にまじって咲いていることに気がきました。鉢からこぼれた実生からでしょうか。心なごむ発見でした。中庭がセツファンソウの花園になればいいなー。

シメ激突死 (平成14年1月31日～2月4日)

戸じまりに行くと、窓の外に見えない鳥が落ちていました(森下)。図鑑で調べると、シメでした。冬鳥で、カエデの実などを好んで食べるので、裏庭のイロハカエデを食べに来て事故にあってしまったようです。群れで行動していましたが、8羽がぎせいになってしまいました。



オオコハズク受入 (平成14年1月4日)

伊良湖の道路の側溝で、動けなくなっているところを保護され、持ち込まれました。エサをよく食べ、とても元気になりました。コハウス内に放すと、すぐに飛べるようになり、間もなく飛び去ってしまいました(Ⅲ号)。

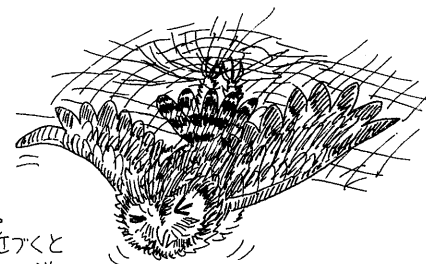
入月先生ありがとうございました (平成14年2月7日)

地学部門学術委員の入月俊明先生が島根大学に転勤となり、この日が最後の学習会になりました。ご指導ありがとうございました。微化石がご専門で、もっともといほしかったのですが、新転地でも、ますます活躍してください。



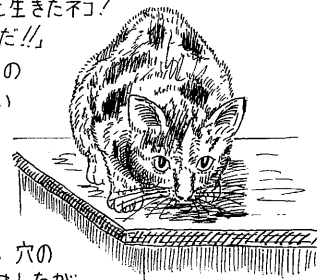
フクちゃんからまる (平成14年1月6日)

現在のコハウスの主はフクちゃんです。彼(彼女?)は、とてもおびょうで、人が近づくとすぐ逃げようとします。でも網にははまされて逃げ出すことはできません。この日も天井まで飛んでいって、1つものように網につかまって、ぶらさがっていましたが、1時間たっても降りてきません。どうも様子が変なので、屋上から見てみると、足に網がからまって動けなくなっていました。地上8mの空中のこと、救出方法に困っていると、館の前の野沢新一さんが知恵と手をかして下さり、無事助けだすことができました。感謝。



侵入者 (平成14年2月15日)

夕方、いつものようにフクちゃんのエサを持ってコハウスに向かうと、なんと、エサ台に生きたネコ! 「どうやって入ったんだ!!」 調べるとコルブ用の強力なネットが食い破られて、ホッカリ穴があいています。フクロウのエサをぬらして、必死にあげたのでしょう。穴の応急処置をしましたが、その後も2〜3匹が出没するようになり、事件をみきおこしていったのでした。



コハズク無さん (平成14年2月24日)

この日の白昼、博物館に来ていた山崎理未ちゃんが1羽のコハズクの異常に気がきました。保護室にかけつけると、Ⅱ号が床にうずくまっています。窓の金網付近には、羽毛が付着していました。窓ぎわで日光浴中に1ネコに襲われたのです。金網ごしに足をつかまれてしまったようです。その日の夜中、冷たくなってしまいました。ネコが悪いのか、すてる人がいけないのか、防衛が甘かったのか、やりきれない事件でした。



春の話題



新緑の鳳来湖を歩く - 第1回学習会 - (平成14年4月29日 晴 115名参加)

緑がまぶしい川合駅を出発し、鳳来湖(宇連ダム)へ向いました。コナラ類の新緑は黄緑色。シヤカシ類は花ざかりで黄金色。スギやヒノキは濃緑色。アカメカシワは赤い新葉です。

ひとつとして同じ緑はありません。

澄んだ青空と緑の風につつまれて食べるお弁当も格別でした。この地域は、ホソバシヤクナゲ、ヒロウドノリウツギなど、ここのしか見られない植物が自生することでも有名です。



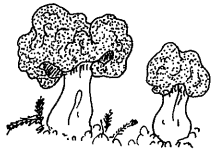
(トウダイクサ科)
アカメカシワ

学術委員総会 (平成14年4月13日)

毎年この時期におこないます。13年度の事業報告と今年の事業の推進について話しあいました。来年は館の40周年です。やりたいことが山ほどあります。



春のきのこと夏から秋のきのこ



シヤマアミカサタケ
4.2 尺持



ウラベニガサ
4.2 尺持

今年は季節が少し早めに進んでいるようです。

花や動物たちも1~2週間早めです。

きのこも同じで春のきのこ(左図)に続いて

夏から秋によく見かけるきのこ(ヌメリイグチ、アマタケ、カキシメジ 4.29川合)も顔を出していました。今から月がほなせません。



ハルシメジ
4.18 連合



ウスバシロチョウ舞う (平成14年4月12日)

氷河時代の生き残りといわれるチョウで、フワフワと滑空するように飛びます。昨年は4月25日に館の前で見たのが最初でした。モンシロチョウにそっくりですがアゲハチョウの仲間で、幼虫はムラサキケマンを食べます。

第8回友の会総会 (平成14年4月13日 晴)

34名の会員と博物館学術委員の出席で開催しました。

はじめに三津井宏先生の記念講演「竹笛作りと自然保護」がありました。

すてきな演奏も聞かせてくれました。

つづいて、13年度の事業報告と会員表彰(精励賞11名)、14年度の事業計画について

提案され、承認されました。そして、新年度の

友の会役員には、次のカマが選ばれました。

会長 小椋克好、副会長 大塚幸男
会計 山田恵一郎、監事 豊田孝子
監事 竹之内昭夫、理事 丸山潤次郎

よろしくお願ひします。

懇親会では恒例の五平もち作りを全員で行いました。みそが焼ける(い)においがペランダにひろがり、みんな口のまわりをみそだらけにしてほおぼっていました。



サシバ飛来 (平成14年4月4日)

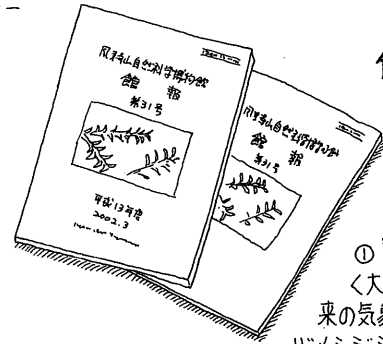
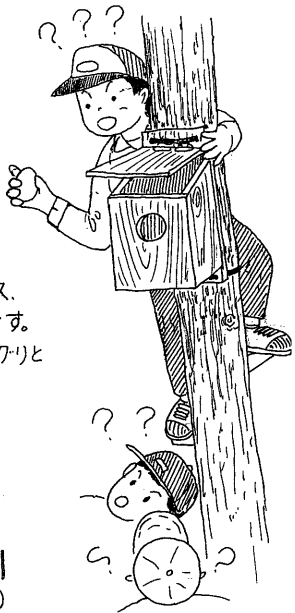
この日、博物館の上空に姿を現しました。昨年は4月14日が初見で、ヒナも巣立ちました。今年は少し早い訪れです。またここで営巣しないかなーと皆で期待しています。

コナズク用巣箱のミステリー (平成14年3月31日、4月2日、4日)

今年もコナズク用に掛けた巣箱の調査をしました。残念ながらコナズクが使った形跡はありませんでした。

利用者はヤマガラ、シジュウカラ、アオゲラ、ホンドリス、モモンガ、ムササビ、スズメバチ、そして正体不明者です。鳳来寺山の白岩付近に掛けた巣箱には、ドンクワと

いっしょにニワトリの卵が入っていました。カラス? リス? サル? それとも人間? 誰か何のために? これで2回目です。今だにナゾです。巣箱ミステリー。



館報第31号発刊 (平成14年3月30日)

平成13年度の博物館館報が完成しました。学術委員と館員の調査研究報告と事業報告を収録しています。主な内容は、

- ①「豊川河川敷で見かけられるコムツキムシ類(続報)」 <大平仁夫>
 - ②「鳳来町の鳥類」 <緒方清人>
 - ③「鳳来の気象」 <牧野彦>
 - ④「鳳来町七郷一色小学校の70ツバメシジミについて」 <内藤善文>
 - ⑤「奥三河の水晶産地」 <横山良哲>
 - ⑥「渥美町小塩津のコナズク観察記録について」 <加藤貞亨、鈴木一夫>
 - ⑦「鳳来町の天然記念物紹介(2)」 <山田由乃>
- (B5版/26ページ、カラー印刷) 1,500円で販売としています。

「るり山No.7」発行 (平成14年4月13日)

友の会報も7冊目を発行することができました。

堀正和先生の総会での講演記録、会員のページでは、13人のメンバーが執筆してくれました。

会報は会員だけの限定配布です。



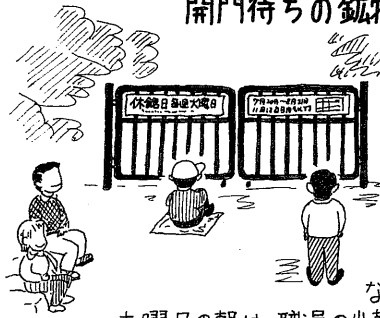
はつかり No. 75
2002.4
80ページ

いいよ♡きらめき鉱物展

横山館長講演「奥三河の注目すべき鉱物と岩石」&鑑定会
(平成14年5月6日(月)、6月2日(日)13:30~)

はぴがたのり No. 76
2002.5

開門待ちの鉱物プレゼント



鉱物展開催中の毎週土曜日に、この地方で産する鉱物のサンプルをプレゼントしています。ただし、先着20名様のみです。毎回ちがった鉱物を用意していますが、何になるかは来てのおたのしみです。

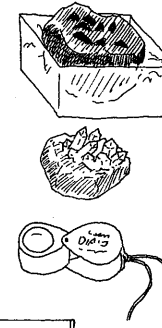
土曜日の朝は、職員の出勤前から待っている人もいて、びびりしてしまいます。

きらめき鉱物展



第1回の講演会を5月6日、13:30から特別展の会場でおこないました。小さな子どもからおとなまで、石好きな人たちが50人ほど集まり、館長のたのしい鉱物と岩石の話に耳を傾けました。講演会終了後は、つづいて鑑定会です。参加者が持参した鉱物や岩石の鑑定をその場でおこないました。6月2日も開催します。興味のある方は、ぜひどうぞ。

セリサイト(絹雲母)でお化粧コーナー



東栄町の三信鉱工で今も採鉱しているセリサイトは、化粧品材料として有名です。絹雲母と呼ばれる微量な雲母は、絹光沢があり、さらつとして肌によくなじみます。このコーナーでは実際にセリサイトを手にとって感触を確かめることができます。



なかには顔に塗ってまっ白い顔で出てくる子どもたちもいて、思わず写真を撮ってしまいました。

鉱物サンプルの内容

- 水晶 (4.6)
- 黄鉄鉱 (4.13)
- 中宇利石 (4.20)
- 鉄ばんざくろ石 (4.27)
- オパール (5.4)
- 満ばんざくろ石
- くじやく石
- あられ石
- バラ輝石
- 電気石

注目品コーナー

中宇利石

パイロクスマン石
アンチモン(輝安鉱)
オパール、ほう輝石
満ばんざくろ石

透輝石、石綿、ひすい?、異剥石
あられ石、藍銅鉱、孔雀石、
玉髓、アルチー石、自然銅、
葉ろう石、中宇利石

鉄ばんざくろ石、鉄電気石、珪線石、
紅柱石、水晶、白雲母、ペグマタイト、
満ばんざくろ石、磁硫鉄鉱、バラ輝石
ネオト石、苦土電気石、タン鉄鉱、
緑泥石、燐灰石、鉄ばんざくろ石

金鉱石
アンチモン
砂金、辰砂
方鉛鉱
閃亜鉛鉱
セリサイト(絹雲母)
硫硫鉄鉱

灰ばんざくろ石、紅水晶、トウ目石、
ラピスラズリ、ラオラドライト、黒曜石、
トルコ石、長石、トルマリン、石英、
アマンチュリン、アメシスト、ほたる石、
アマツナイト、ガーネット、こけめのう、
ペリドット、黄水晶、煙水晶、
めのう、金砂石、エメラルド

東三河の鉱物パンフレット



特別展にあわせてつくりました。代表的な鉱物や産地などを紹介しています。見学時にさしあげます。

標本提供に感謝 — 4名の方が大切なコレクションの一部を出品してくれました。ありがとうございます。

- 加藤陽司さん(友の会員)……パイロクスマン石、水晶、オパール、方解石、玉髓、めのう、ネオト石、黄鉄鉱、
水谷十三郎さん(友の会員)……砂金、オパール、煙水晶、毛鉱、輝安鉱、バラ輝石、黄銅鉱、白雲母、
大谷宣人、順子さん(友の会員)……満ばんざくろ石、方鉛鉱、輝水鉛鉱、金雲母、
大友義博さん……中宇利石、アルチー石、自然銅、ほたる石、長石、鉄電気石、黒雲母、満ばんざくろ石



館報(鉱物関係)と館長の本

宝石コーナー

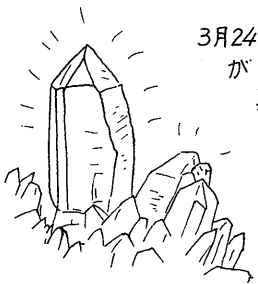


加藤陽司 コレクション

鳳来寺山
自然科学
博物館

立夏から梅雨の話題

「きらめき鉱物展」無事終了
(平成14年6月10日)



3月24日から始まった「きらめき鉱物展」がこの日をもって一応終了しました。期間中、のべ2,707人の見学がありました。館長の講演「奥三河の注目すべき鉱物と岩石」と、とても好評でした。6月2日の第2回講演は、1回目を上回る聴講者で会場がうまりました。

人気のため、期間後もしばらく展示を続けました。撤収後の現在は、代表的鉱物を2階の階段正面に移して常設展示しています。



町内学生の見学 (平成13年6月13日)

「きらめき鉱物展」にあわせて鳳来中学の1年生、鳳来東小学校5・6年生が見学に来てくれました。館長から奥三河の大地のなりたちと、そこでみられる岩石や鉱物について話を聞いた後、熱心に見学をしてくれました。

また、鳳来東小学校1~4年生はコリハズクやモリアオガエルについて調べに来ました。館の脇にある産卵池にモリアオガエルの雄が

どつてきていて、ま近でじっくりと観察することができました。(5月29日) 実物に勝るものはないですね。



学校へ出張

6月15日、山吉田小学校PTAで「ホタル」についてのお話。

7月3日、鳳来西小学校4年生

総合学習「寒狭川に学ぶ」で水生生物の調査について。

7月1日、黄柳野小学校からヒョウモンウラベニガサ発見の連絡。傘にヒョウのような模様があるとてもめずらしいきのこで、さっそく記録しました。

鳳来寺山
自然科学
博物館



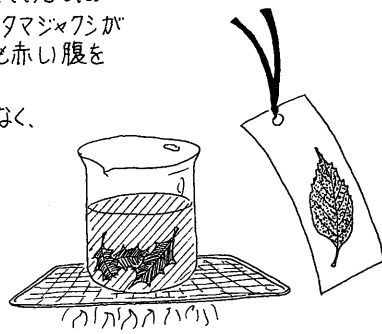
学習会「モリアオガエルや鳳来寺山の生きものを調べよう」
(平成14年5月26日、晴、89名参加)

昭和51年頃から続けている人気の学習会です。モリアオガエルはコリハズクとならんで鳳来寺山にはなくてはならない生きものです。今回と中腹のため池の上、はるか4m~5m先に卵塊が産みつけられていました。

池にはヤマアカガエルのオタマジツクがまっ黒くなって泳ぎ、イモリも赤い腹を時々見せていました。

今年は池にはまる子もなく、無事観察できました。

モリアオガエルの
鳳来寺山での産卵初日
平成14年5月3日
13年5月18日
12年5月15日
11年5月15日
10年5月3日



「草花を楽しむ」子ども自然講座
(平成14年6月8日、晴、23名参加)

今年から始めた子どもだけの講座の第1回目です。学術委員の山田由乃先生が講師です。午前中は博物館周辺の植物観察。午後は葉脈標本を作ったり、ラミネートカードやポストカードしおりなどにして楽しみました。

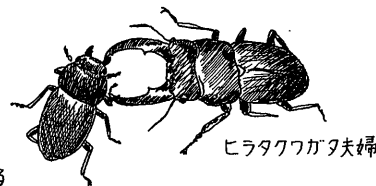


からいキノコ、すっぱいキノコ



ヒロハシデチチタケ
(鳳来町)

友の会員の山崎理未ちゃん(子郷中1年)はきのこにとっても熱心です。名前を調べるために博物館まで、いろいろなきのこを採集してきてくれます。6月2日とおもしろいきのこを持ってきてくれました。一つはヒロハシデチチタケ。ベニタケ科のきのこで、肉をかんでみると舌がヒリヒリするくらいからい味がします。もうひとつはカンゾウタケ。肝臓のようにも、牛の舌のようにも見えるまっ赤なきのこです。スライスして生で食べられますが、まるでビフテキです。味は酸味があります。少しだけ味見して標本にしました。



ヒラタクワガタ夫婦

クワガタ登場
(平成14年6月30日)

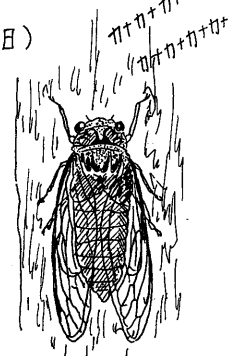
クワガタで生きたクワガタの展示を始めました。友の会長の小椋さんが展示用にと、昨年まで育ててくれたものです。飼育槽の中を元気に動きまわっていて、夏休みの人気者になりそうです。



はぴなだもり No.77
2002.7

夏の声 (平成14年7月4日)

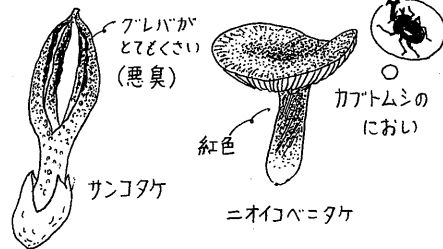
半夏生(7月2日)をすぎると梅雨あけもまちかです。門谷では、この日からヒグラシが鳴きはじまりました。博物館隣の日比野さんが気づいて教えてくれました。この声が朝夕聞こえてくると夏を感じます。



梅雨期のきのこ観察会

(平成14年6月23日、くもり、92名参加)

恒例になった友の会行事で、おせいの参加がありました。カブトムシの臭いからするニオイコベニタケや変わった形のサンコタケなど64種以上のきのこが観察できました。

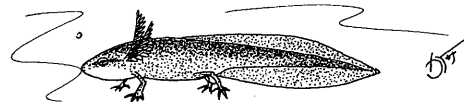


クレバガ
どてどくさい
(悪臭)

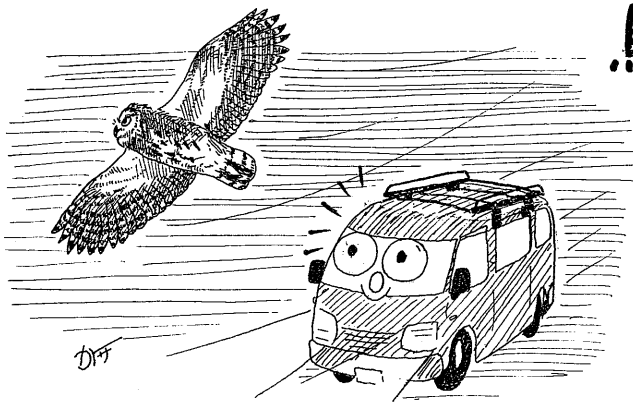
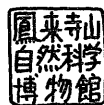
カブトムシの
におい
ニオイコベニタケ

見つけたよ! サンショウウオ!
(平成14年7月3日)

鳳来西小学校の池でサンショウウオが見つかりました。友の会員でもある原田峻明くん(5年生)の発見です。原田猪津夫先生に見てもらったところ、ヒタサンショウウオの幼体とのこと。源流に近い溪流に生息し、愛知県では設楽、稲武、津具、豊根、足助で確認されていますが、鳳来町では未記録です。



鳥たちの話題



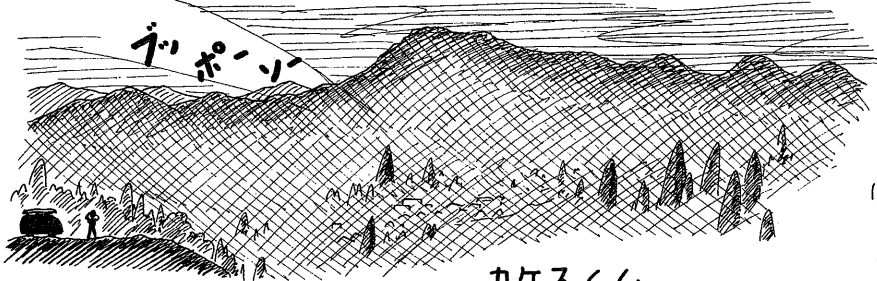
会っちゃった!! (平成14年6月8日)

この日もコリハズクの生息調査に出かけました。鳳来寺山周辺でも、すでに鳴かない時期になりましたが、小松家旅館の岡田さんがコリハズクの鳴き交わす様子を録音に成功しました。そこで確認に向いた際のできごとです。調査地近く、車の前上を横切る鳥がありました。もしやと思い停車すると頭上のアマガツにコリハズクがノリ止まり、私を見おろしています。約1分間の対面でした。感激して写真は撮り忘れえました。

今年も鳴きました「仏法僧」

初鳴日
平成11年5月13日
" 12年5月22日
" 13年5月6日
" 14年5月13日

鳳来寺山から「仏法僧」が聞けなくなり、15年ぶりに鳴いたのが平成11年でした。それ以降、毎年鳴いて、今年で4年目です。うれしいです。次の関心は繁殖です。鳳来寺山にとどまてヒナを育てているのでしょうか? いつまでいたのか、鳴き声をたよりに追跡していますが、今のところ5月29日まで、確認されています。

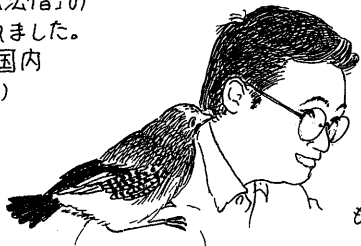


カケスくん (平成14年6月9日)

阿寺で拾ったという男性が、カケスの巣立ち前の幼鳥を持ち込みました。(この時期、保護したつもりが、ゆうか1)になってしまっていることがあるので注意が必要です。)

ギャー、ギャーととどろき、まだ羽も生えそろうていない状態でしたが、ミルワームとドッグフードで順調に育ち、今では親と変わらないほどに成長しました。

事務室でめんどうを見ていましたが、ところまわずフンはするし、お客さんにちょっかいをだしたり、机の小物をかくしたりと、いたずらをするので、別の部屋に移しました。そこでは逃げだしてしまい、放鳥成功かと思いましたが、もどってきてしまいました。



県庁へ出張のコリハズク (平成14年5月24日)



博物館の仏法僧コーナーにいた2羽のコリハズク(♂♀割製)が、11月8日まで愛知県庁に長期出張に出かけました。昭和40年に県の鳥に選ばれましたが近ごろは知らない人も多くなり、県庁を訪れる人に県鳥を知ってもらうことが使命です。博物館で収録に成功した鳴き姿ビデオも上映しています。コリハズクの知名度アップに貢献できれば彼らの出張は成功です。

巣立ちの季節 (平成14年6月1日)

この日、博物館の前の庭がとどにぎやかでした。

コケラの親子4羽がハナノキヤムクロシユの幹や枝をせわしなく動きまわっていました。親鳥にエサをねだったり、自分で木をつついたりしています。すぐ近くではキセキレイも親にせかされるように巣立ちの特訓中でした。コリハズクも今頃は、鳳来寺山のどこかで……と期待してしまいます。



計報

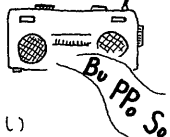
博物館で保護飼養中だった鳥たちが亡くなってしまいました。放鳥をめざしていたのでとても残念です。

平成14年3月30日
フクロウのフクちゃん (1ネコにおそわれ3)
平成14年4月17日
コリハズク号 (ウイルス性感染症)
平成14年4月29日
コリハズク号 (ウイルス性感染症)



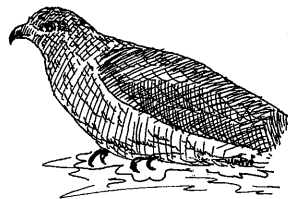
外国に流れた「仏法僧」の声 (平成14年7月18日)

NHKは海外向けに短波放送を行っています。今回、鳳来寺山のコリハズクについて特集が組まれ、地元の人たちのコリハズクに対する声や、昭和10年の実況録音、コリハズクの鳴き声が放送されました。海外の人たちの耳に鳳来寺山の「仏法僧」の声がとどけられました。残念ながら国内では聞けない放送でした。



トビ、アオバズクの保護、放鳥

平成14年6月1日、玖老勢郷中橋付近で衰弱したトビが保護され(夏目恵里、宮崎ひとみさん)、運び込まれました。水につかった体を乾かし、保温して安静にしたところ、少しづつ元気をとりもどし、翌日には飛びたつことができました。平成14年7月1日早朝、片桐雄史さんが一宮町江島橋付近でうずくまって動かないアオバズクを保護しました。止まり木にも立てないほど弱っていました。強制給餌で食べさせ3日後に放鳥を試みましたが、まだ体力がないのか飛び立てずに失敗。8日後にやっと元気に飛び去っていきました。



鳳来寺山自然科学博物館友の会 夢の600人目前号

はつかわだより No. 79
2002.7

平成14年度友の会員 592人

友の会を担当した頃(昭和63年~)には考えられない、夢のような人数です。町立の博物館ではありますが、友の会員は県外にも及んで、全国各地に仲間ができてきました。

友の会には、次のような特典があります。

- ① 博物館の諸行事の通知を受け、優先的に参加
- ② 博物館の印刷物の配布(はくぶつかんだよりなど)
- ③ 博物館の展示について無料で見学

家族的で和気あいあいとした雰囲気、学習会の講師の先生方も皆さん優しい。などなど、いろいろと魅力に感じてくれて、口こみで広がってきた組織です。人数が増えたことで魅力がなくなったり、迷惑をかけることがないように事務局一同がんばります。



はくぶつかんだより

友の会の会報です。今年で7号になりました。会員の自由な投稿でつくられます。瑠璃山とは、鳳来寺山の最高峰のことです。

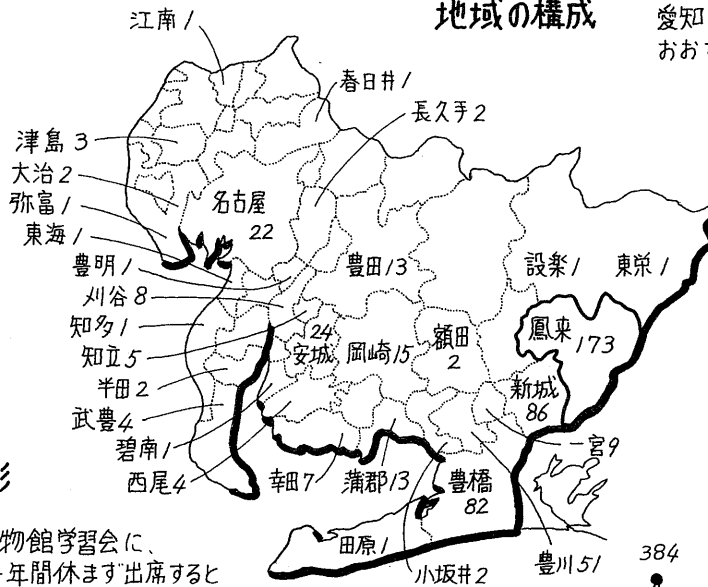
会員の方は、来春発行の第8号の原稿の準備に、そろそろとりかかってもらいたいです。

会員表彰

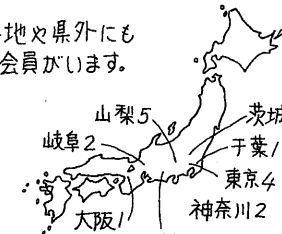


博物館学習会に、一年間休まず出席すると館長から賞状と記念品のルーペがもらえます。

地域の構成



愛知県内各地や県外にもおせいの会員がいます。



累計 5,899人

(7月末現在)

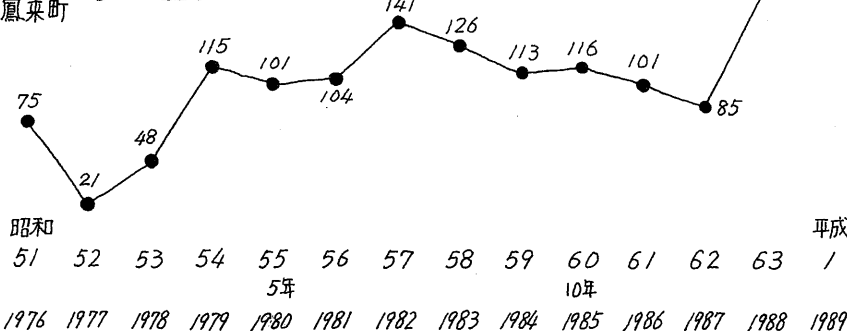
592人

- 竜洋 5
- 湖西 2
- 静岡 1
- 浜北 2
- 舞阪 2
- 雄踏 5
- 浜松 13

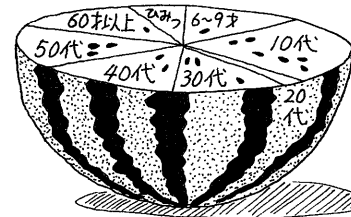
はくぶつかんだより

もともと会員の人々の手紙のようなもので、昭和63年から始めたものです。現在は鳳来町全戸に配っています。

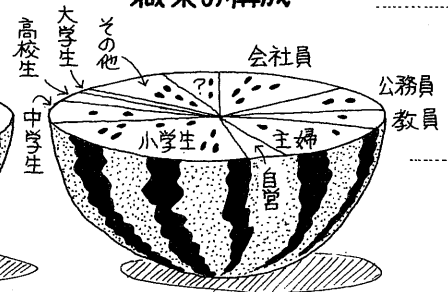
館をとりまく自然や日常のできごとをお伝えするように心がけています。



年齢の構成



職業の構成



いろいろな職業や、年齢の人たちが会員になっています



59

はくぶつかん活動 2002年 夏から初冬

特別展

はくぶつかん 16.80 2002.12 鳳来寺山 自然科学 博物館

自然を楽しく学ぶ学習会

- 7月14日(日) 鳳来町門谷付近の地層と化石(136名参加)
- 8月10~11日(土、日) 鳳来寺山の森や谷川の生きものを学び、夜の森を採集しよう(61名参加)
- 9月8日(日) 渥美半島の地形と地質・化石を学ぶ(58名参加)
- 10月13日(日) きのかを学ぶ(94名参加)
- 11月16日(土) 阿寺周辺の秋の植物(31名参加)
- 12月7日(土) 野鳥の生態を観察し、巣箱をつくろう(68名参加)



7.14



8.10~11



9.8

出席印



12.7



11.16



10.13

毎回、人気の学習会です。友の会員は出席ごとに消しゴム製の印が押されます。パーフェクト出席の会員は何人もいます。

子ども自然講座(子どものための子どもだけの講座)

平成14年度から、学校が完全週休2日制になりました。土、日のすこし方はいろいろですが、博物館を利用することも、とても良いことです。館では今年から、これまでの学習会に加え、子どもたちだけを対象にした講座を行なうことにしました。町内を中心に、熱心な子どもたちが集まりました。

- ① 6月8日(土) 草花を楽しもう(23名参加)
- ② 8月28日(水) 石器をつくろう(23名参加)
- ③ 9月28日(土) きのかを調べよう(9名参加)



野生鳥獣の保護飼養

- アオバズク(7.1受入、7.8放鳥)
- フクロウ(7.26受入、8.8死亡)
- カケス(6.9受入、8.20放鳥)
- モモンガ(10.6受入、10.9死亡)
- コバズク(11.1受入)
- オオコバズク(12.3受入、12.21死亡)
- オオコバズク(12.27受入、近日放鳥)

ケカや衰弱で小さな生きものたちが運ばれてきます。元気になって帰っていくものがある一方、残念な結果になるものもあり、つらい思いもします。



モモンガ(鳳来寺山で保護)

展示見学と現地学習の支援

- 見学と化石採集案内 東海市立 舟島小(7.22)、明倫小(7.25) 緑陽小(7.27)、三ツ池小(7.31) 畠木島小(8.2)、名和小(8.5)
- 見学と昆虫採集案内 岡崎市立 連尺小(10.17)

7月20日~9月1日 「みつめよう足元の自然」
- 鳳来寺山の大地から樹冠まで -
(3,169人見学)

9月22日~11月4日 「きのこ展」(1,618人見学)
~開期中のきのこ相談 135件~

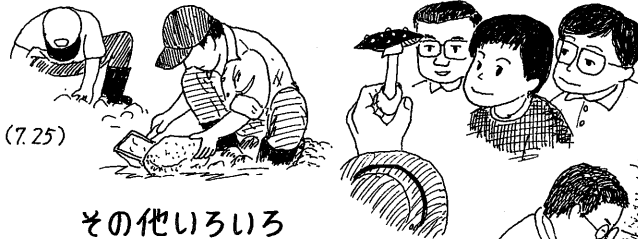
夏の特別展は、これまでと視点を変えて、地下の土壌や地表から樹冠までの、普段気づかずにいる世界を紹介しました。きのこ展は14年間続いている超ロングランの展示会で、地域の恒例行事のようになっています。

教師向け「自然と博物館利用講座」

平成14年度に初めて開催する講座です。鳳来寺山の恵まれた自然と博物館を活用してもらうため、町内や周辺の学校の先生に呼びかけました。鳳来町や新城、遠く豊田の先生が真剣に受講しました。

- ① 9月23日(月) 川の環境と水生生物(17名参加)
- ② 10月16日(水) 菌類(きのこ)の観察と分類(11名参加)
- ③ 11月9日(土) 鳳来寺山付近の地形と地質(26名参加)

学校や地域の学習、鳳来寺山と博物館を組み合わせた野外観察コースの設定など、フィールドと館の活用を願って企画しました。今後、先生方の意見を聞きながら、よりよいものになりたいと思います。



その他いろいろ

- 8月16日 佐久間町教員地学巡検講師(館長)
- 8月20日 鳳来中学生職場体験(林くん、大岩くん)
- 10月23日 愛知県理科教育研究会野外巡検講師(館長)
- 11月3日 鳳来町ふれあいフェスティバル初出展(店)
- 11月12日 愛知県理科教員初任者研修
- 12月14日 博物館の門松立て
- 12月15日 博物館学術委員会全体会議(新年度行事協議)
- 12月28日 大そうじ

友の会行事と会員増

11月23日 開館39周年感謝祭
小本京会長、竹之内、豊田、丸山、山崎一家、深見夫妻、嵐さんが協力。出店者のバザーの売上げの一部または全部を友の会に寄付していただきました。感謝。

11月30日 館長と歩く鳳来の自然
- 小さな不思議を訪ねる -
小さな小さなウエの化石、シマメカシパン、高温石英、黄鉄鉱がきらめく金鳳石が採集できました。

友の会員600人突破!!
記念すべき600人目は、岡崎市の倉橋さんでした。現在の会員は613名(12月末時点)になっています。



出前講座・観察会

博物館職員が現地に出かけて行っておこなう講座や観察会です。館長と学芸員が担当しました。

- ・于郷中学校・鳳来東小学校(2回)
- ・鳳来中部小学校・鳳来西小学校
- ・山吉田小学校・菅守小学校
- ・きのこ観察会(6回)

学芸員実習

博物館学芸員を目指す人の実習です。今年は天野さん(8.8~8.12)と、原田さん(9.1~9.9)が11っしょうけんめい取り組みました。今後のがんばりを期待します。